

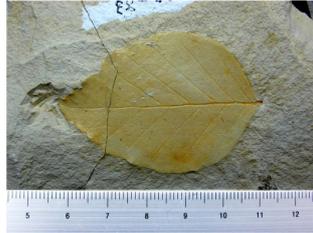
## 鹿児島の岩石・化石①

## 消えた謎の湖を求めて

地質担当 桑水流淳二

4月、薩摩川内市樋脇町藤本で科学教室「化石発掘体験」が行われました。40名ほどの参加者があり、ブナやメタセコイアなど多くの植物化石が見つかりました。

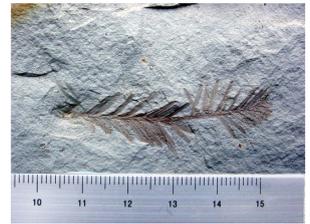
ブナは現在、県内では標高1,000m以上の紫尾、霧島、高隈の山頂付近にしか分布していないことから化石ができた当時の気温は、今よりもずっと低かったと考えられています。



ブナの化石

また、メタセコイアは絶滅した植物と考えられていましたが、1945年に中国で生息しているのが発見され、“生きた化石”として有名になりました。

これらの化石は、ほぼ完全な形で産出し、淡水魚化石も見つかることなどから、波静かな湖で形成されたと考えられています。



メタセコイアの化石

さて、その湖の大きさはどのくらいだったのでしょうか？藤本で見られるような地層が北薩地域の多くの地点で確認されていることから、日本最大の琵琶湖と同じくらいではという説もありますが、よく分かっていません。それを知るためには、このような植物化石を含む地層の広がりをおおまかに調べてみなくてはなりません。“消えた謎の湖”を求めて、まだまだ調査は続きます。

## 鹿児島の植物②

## クスノキ

植物担当 大屋 哲

衣替えはもうお済みですか？

今では、香りのつかない防虫剤がほとんどですが、以前は樟脳が衣服の防虫剤として使われていました。衣替えの次の日は、衣服が樟脳くさくてという経験をされた方もいらっしゃるのでは・・・。

樟脳はクスノキから抽出していました。クスノキの葉をもんで嗅ぐとまさに樟脳においがします。

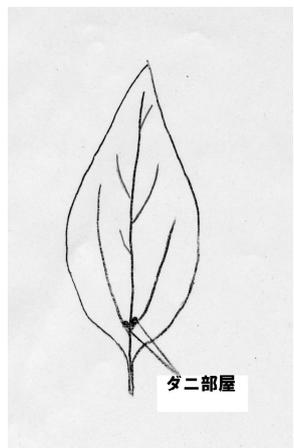
このようにクスノキ科の植物を見分ける第1歩は、嗅いでみることです。

クスノキをはじめ、ニッケイやカレーライス等にも入れるゲッケイジュ、楊子として使われるクロモジなど、クスノキ科の植物には、独特の芳香を出すものが多いのです。これは、葉や樹皮などに精油細胞をもち、カンフルなどの精油成分を含んでいるためです。

また、クスノキの特徴は葉にもあります。葉脈の中で主脈と側脈が目立つため、三行脈と呼ばれています。おもしろいことに、この

主脈と側脈の接合部分に、ダニの住むダニ部屋があります。

このダニがどんな生活をしているかは興味深いところですが、ダニ部屋をもつ樹木が熱帯には何百種とあるのに対して、日本ではクスノキだけなのです。



生長が速く長命で、さらには公害にも強いなどの理由から街路樹としてよく植栽されています。また、神社、寺院にも植えられ、中には鹿児島県の誇る「蒲生のクス」のように特別天然記念物に指定されているものもあります。

鹿児島県の県木で、身近にある樹木なので、是非葉をもんで嗅いでみましょう